

各 位

一般社団法人川西市歯科医師会
会 長 藤 木 薫

口腔ケア講演会開催のご案内

謹啓 晩冬の候、時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、この度当会では、医療・介護職従事者の皆様を対象に、明日の介護に役立つ口腔ケア講演会を下記要領にて開催致します。多数お誘いあわせの上、ご参加下さいますようお願い申し上げます。

記

日 程：平成29年3月18日（土）PM2：00～5：00

場 所：アステ市民プラザ マルチスペース2（アステ川西6F）

* 阪急宝塚線 川西能勢口駅下車 徒歩1分

費 用：無料

演 題：「口腔ケアで 誤嚥性肺炎予防、サルコペニア、フレイル予防」

講 師：舘村 卓 氏

一般社団法人TOUCH代表理事

川西市歯科医師会立訪問歯科センター顧問

*お問い合わせ等は川西市歯科医師会までご連絡ください。

(TEL：757-5868)

以上

口腔ケアで誤嚥性肺炎予防，サルコペニア，フレイル予防

川西市歯科医師会立訪問歯科センター 顧問
一般社団法人 TOUCH/Touch-Solution 合同会社
代表 舘村 卓

救命医療の発達により，致命的疾患や状態からの救命率は増加していますが，日常生活機能も回復して生活参加できる人は少ないのが現状です。摂食嚥下障害は，生活参加を妨げる障害の一つであり，「口から食べること」への支援が，病院，施設，在宅にかかわらず強く求められるようになってきています。

その背景は，従来の臨床現場で，疾患治療後の急性期に栄養支援のためと考えられてきた口をつかわせない栄養法が長期的には栄養障害や嚥下障害を惹起し，場合によってはサルコペニアのリスクを高め，さらにはフレイルの原因となることが知られるようになったためです。すなわち，生活参加のため必要なリハビリテーション療法は，低栄養状態では却って身体機能を損なうため，まずは消化管運動を促して栄養吸収率を高めることが必要であると認識されるようになったためです。そして，消化管運動の賦活には経口摂取が必要であることから，摂食嚥下障害への対応の必要性が認識されるようになりました。

しかしながら，長期療養施設，老健施設，居宅と様々な環境で生活される方々の摂食嚥下障害の原因，様態，重症度は多種多様であり，これらの方の特性を無視して，病院でコミュニケーションが可能な患者さんへの対応法を適用したとしても，好ましい結果を得られていないのが現状です。

近年になって，口腔清掃すると誤嚥性肺炎を含む肺炎の発症率が低下し，経口摂取機能も改善することが報告されるようになりました。そのため，このような口腔への介入を，歯科疾患の予防のための口腔清掃とは異なるとして，「口腔ケア」と呼ぶようになってきました。肺炎予防や口腔機能改善の効果があるとしていることから，口腔ケアを担うのは，看護職だ，言語聴覚士だ，歯科衛生士だ，等々の不毛な議論を聞くまでもなっています。

口腔ケアに限らず必要なケアは，対象者の生活する環境によって異なり，その状況は同一個人であっても経時的に変化するため，その都度評価してニーズを明確にして調整することが必要であり，職種によって内容が異なるものではありません。しかしながら，ほとんどの場合，対象者の状況の評価に基づいた適切な口腔ケアのプログラムが構成されずに，理論の裏付けのない手法が盲目的に継続されていることが多いように見えます。その結果，「口腔ケア」のために歯垢で汚染された刺激性唾液を誤嚥させ，口腔ケアの日に肺炎になるという本末転倒の結果を散見することもあります。

今回の講演では，異なる生活場面で過ごされる方々への経口摂取を支援する上で必要な口腔ケアの概念である，1) 呼吸路の安全性の確保，2) 口腔咽頭機能の賦活，3) 食事調整の3つのキーフレーズを中心にお話したいと思います。